

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

2023/3/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		3月30日現在 (矢印は2月末比)	4月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 132.70	↗ 125.00 ~ 140.00
	日銀政策変更期待後退が円安要因も金融不安が残り上値も限定的		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.091	↘ 1.00 ~ 1.10
	ユーロ・円 (円)	↗ 144.70	↗ 135.00 ~ 155.00
	金融システム不安が欧州へ波及しないかが焦点		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.239	↘ 1.10 ~ 1.30
	ポンド・円 (円)	↗ 164.37	↗ 155.00 ~ 175.00
	金融不安相場からの巻き戻しが予想されるが、英国への危機波及には注意		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 89.07	↘ 80.00 ~ 95.00
	NZドル・円 (円)	↘ 83.11	↘ 75.00 ~ 90.00
	RBAの利上げ停止と世界景気減速懸念が重石		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 27,783	↘ 26,000 ~ 29,000
	景気先行きへの警戒で上値重いが半導体市況の回復期待等が支え		
	NYダウ (ドル)	↗ 32,859	↘ 31,000 ~ 34,000
長期 金利	金融不安の懸念が落ち着いても景気に対する楽観論は修正されよう		
	日本 (%)	↘ 0.315	↗ 0.25 ~ 0.40
	日銀新体制は緩和継続路線だが米金利上昇と円安に注意		
	米国 (%)	↘ 3.549	↗ 3.00 ~ 4.00
	金融不安の一服による金利上昇を見込むが、不確実性は残る		

◆ 今月の注目ポイント

堅調な経済情勢と金融不安影響のバランス

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	◎	【欧米の金融不安と堅調な経済情勢】金融不安の発端となったシリコンバレーバンクやクレディ・スイスの問題は当局の即時対応もあり収束に向かいつつある。しかし金融市場では連鎖的な金融危機発生への不安は強く不安定なマーケット環境は続いている。その一方、3月に発表された米国経済指標も総じて堅調であり、インフレ圧力も根強いことは、FRBの金融引締め継続をサポートする。今後は金融不安の実体経済へのマイナス影響がどれほど出るかポイントとなろう。経済指標と金融機関の問題を巡る動きで市場は揺れる展開が続く。
金融政策	○	【日銀・植田新総裁就任】経済環境が変容するなかで異次元緩和からの出口戦略が課題。欧米では金融機関不安等の問題も生じており、10年金利は変動幅上限の0.50%を下回る水準で推移している。一方で春闘では高い賃上げ率が確認され、高いインフレ環境は続いている。こうした中で植田総裁のもと最初となる4月会合でイールドカーブコントロール政策等に修正があるか注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↗ 18.90 ~ 19.50	ルピー・円	↗ 1.58 ~ 1.65
バーツ・円	↗ 3.80 ~ 3.95	ウォン・円	↗ 9.90 ~ 10.40
ルピア・円	↗ 0.86 ~ 0.89		

◆ 今月の重要日程

3日(月) 米	3月ISM製造業	12日(水) 米	FOMC議事録(3/21, 22)
4日(火) 豪	RBA理事会	18日(火) 中	23/1QGDP
5日(水) 米	3月ISM非製造業	20日(木) 日	日銀支店長会議(予定)
7日(金) 米	3月雇用統計	21日(金) 日	3月CPI
10日(月) 日	3月景気ウォッチャー調査	28日(金) 日	日銀金融政策決定会合
12日(水) 米	3月CPI	28日(金) 米	23/1Q雇用コスト指数

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

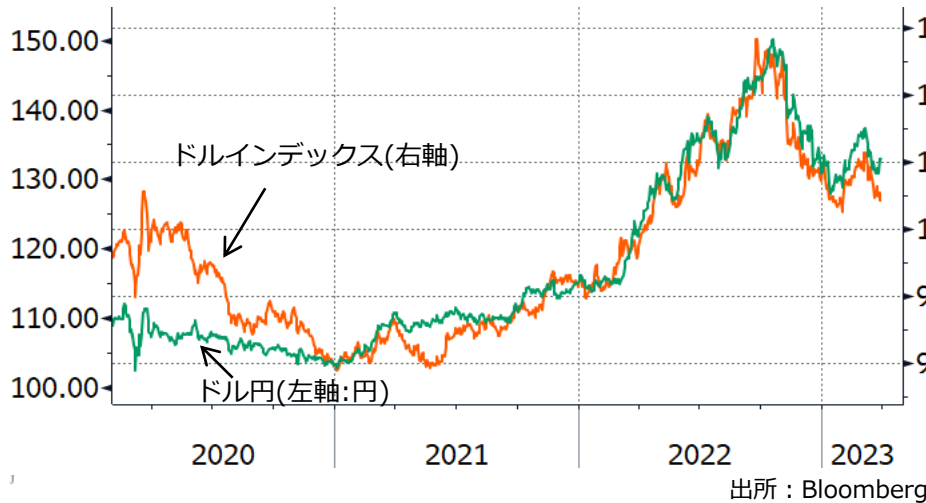


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

ドル円は上昇

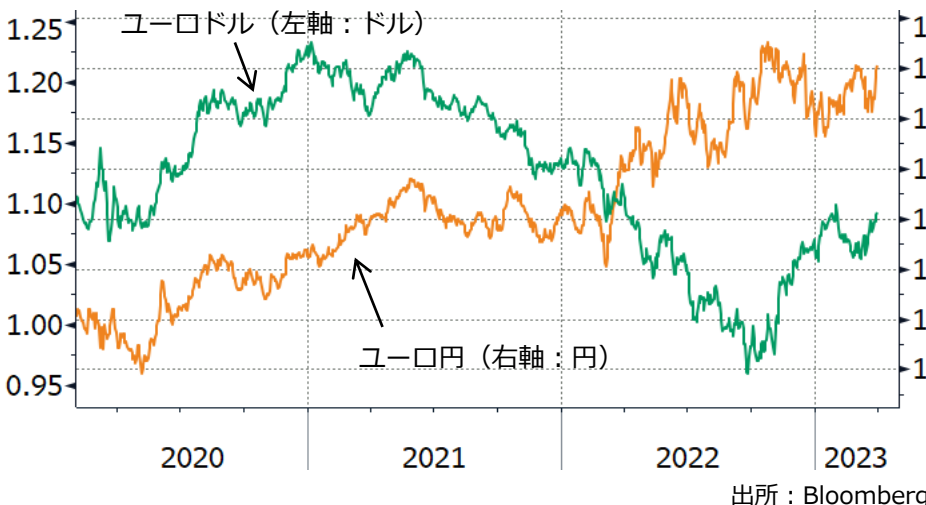
125.00 – 140.00円

日銀の早期政策変更期待後退が円安要因も金融不安が残る中では上値も限定的

3月のドル円相場は右肩下がりでの上値の重い展開となった。3月上旬の日銀会合では、追加的な政策変更はなく、現状の政策が維持された。2月からの国債補完供給オペの厳格化により日本国債のショートポジション（売り持ち）を維持するコストが上昇していたこともあり、会合以降の国内金利は大きく低下しドル円も一時上昇していたが、米国発の金融不安が高まると、リスクオフの債券買いとFRBの利上げ織り込みが急速に剥落したことで米金利が低下し、USD安主導でドル円は大きく下落した。FRBは予定通り0.25%の利上げを決定したが、市場では早期の利上げ停止と利下げ転換期待が再び高まっており、米長期金利は上昇しづらい環境となっている。

4月は日銀が新体制となり、黒田緩和からの転換への思惑も高まっていたが、足元の金融環境のもとでは政策変更を行う喫緊性は低下しており、4月下旬の初回会合での政策変更（JPY高要因）の可能性は低下している。欧米の金融システムへの過度な警戒が緩和する過程では、リスクオフの後退により米金利と共にドル円にも上昇するとみられ、金融不安の根本的な解決も見込みがたく一定の懸念が熏り続けるなかでは値幅は限定的となろう。4月はFOMCの開催はなく、経済指標を見極めながら神経質な相場が続くだろう。

ユーロ



ユーロドル

ユーロドルは下落

1.00 – 1.10ドル

ユーロ円

ユーロ円は上昇

135.00 – 155.00円

金融システム不安が欧州へ波及しないかが焦点

3月のEUR相場は対USDでは上昇したが、対JPYでは下落した。米国発の金融不安の台頭により、FRBの利上げ期待後退とともに米金利が大きく低下し、為替市場全体でUSD安が進行したことによりEURの対USD相場が押し上げられた。一方、米国・スイスでの金融不安がJPYの安全資産としての価値を相対的に高め、JPY高地合いとなったことから対JPYでは上値が抑えられた。

4月はFRBもECBも政策決定がなく、金融システム不安がユーロ圏へ波及しないかが最大の焦点。ECBはかかる状況でも3月宣言通りの0.50%利上げを断行したが、次回以降のスタンスは明確に示していない。金融不安が深刻化した場合には利上げ幅の減速や利上げ停止も視野に入ると見られ、EUR相場を押し下げる可能性。一方、当局対応により危機を回避し鎮静化に向かう場合は、ECBの利上げ継続とリスクセンチメントの改善により対JPYではEURに上昇余地。現時点では後者の可能性が高いと見るが不確実性は高い。対USDではUSD安の巻き戻しの動きがみられよう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

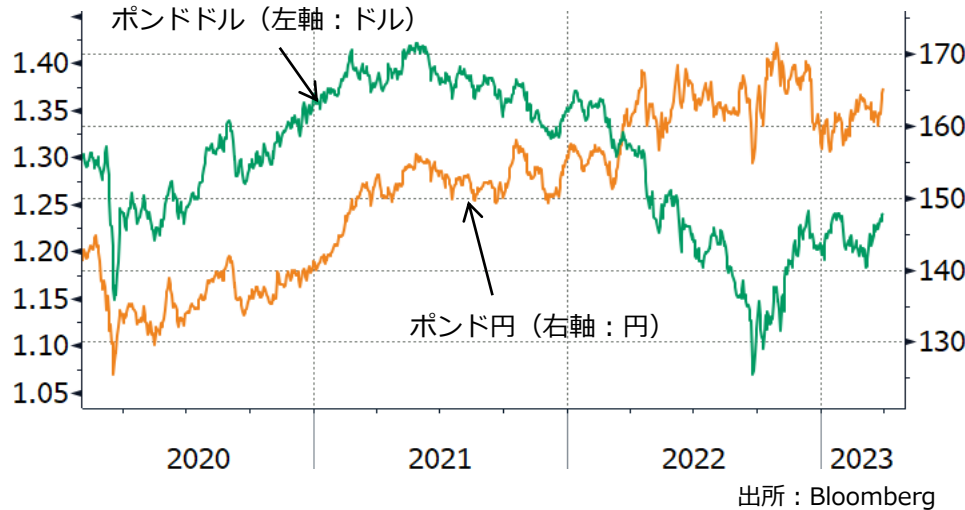


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.10- 1.30ドル

ポンド円



ポンド円は上昇

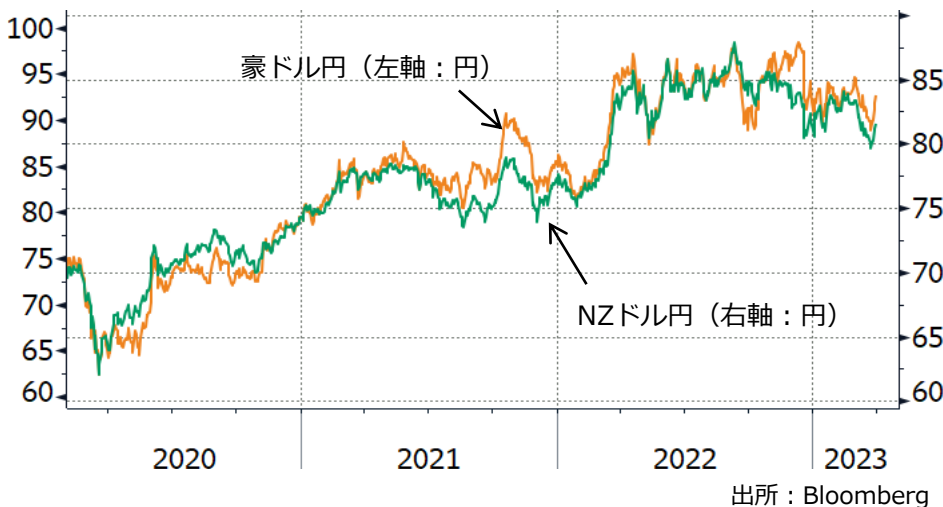
155.00 - 175.00円

金融不安相場からの巻き戻しが予想されるが、英国への危機波及には注意

3月のGBP相場は対USDでは右肩上がりで上昇したが、対JPYでは上値の重い展開となった。米国発の金融不安の高まりとFRBの利上げ織り込みの剥落からUSD安が進行し、USD以外の通貨を下支えた。金融不安はスイスに波及し、相対的にJPYの安全資産としての価値を高め、JPY高が進んだことから、クロス円は下落が目立つ展開となった。月末にはこれらの懸念が小康したことから、JPY買いの一部巻き戻しが入り一定程度持ち直しとなった。

金融不安が高まるなかでも、BOEはECB、FRBに続いて予定通りの利上げを実施し、インフレ抑制を優先する姿勢を維持した。英国についてはインフレが指標が上振れとなったことも影響したと思われる。一方、今回の決定では大幅利上げを主張するメンバーがいなくなり、利上げの停止も視野に入ってきた。リスクオフが一服する過程ではUSD安の巻き戻しが入りやすく、対USDでは下落を予想するが、JPY安主導で対JPYでは底堅くなりやすいだろう。一方、金融不安の芽も完全に潰えたわけではなく、引き続き不安定な相場は続きやすく、変動率は注意が必要だろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円



豪ドル円は下落

80.00 - 95.00円

NZドル円



NZドル円は下落

75.00 - 90.00円

RBAの利上げ停止と世界景気減速懸念が重石

3月のオセアニア通貨はAUD、NZDいずれも対JPYで下落した。米国発の金融不安の高まりによりグローバルにリスクセンチメントが悪化し、安全資産であるJPYの需要が高まったことが、世界景気の動向に敏感なオセアニア通貨の重石となった。

4月は4日にRBA、5日にRBNZの政策決定会合が予定されている。RBAは利上げ見送り、RBNZは0.25%の利上げが予想されている。利上げ停止となれば先進国では今次局面でBOC (カナダ) に続き2例目となり、利上げを続けているFRBやECBとの比較から、通貨安となりやすいだろう。米金融不安からグローバルな景気後退懸念に繋がり、資源価格が軟化している点も、オセアニア通貨の重石となるだろう。

また、4月上旬を目途に、豪政府からRBAに対するレビュー結果の公表が予定されている。毎月実施されている政策決定会合の削減等も含めた提言も含まれる模様であり、今後の政策決定への影響が生じないか等注目となる。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

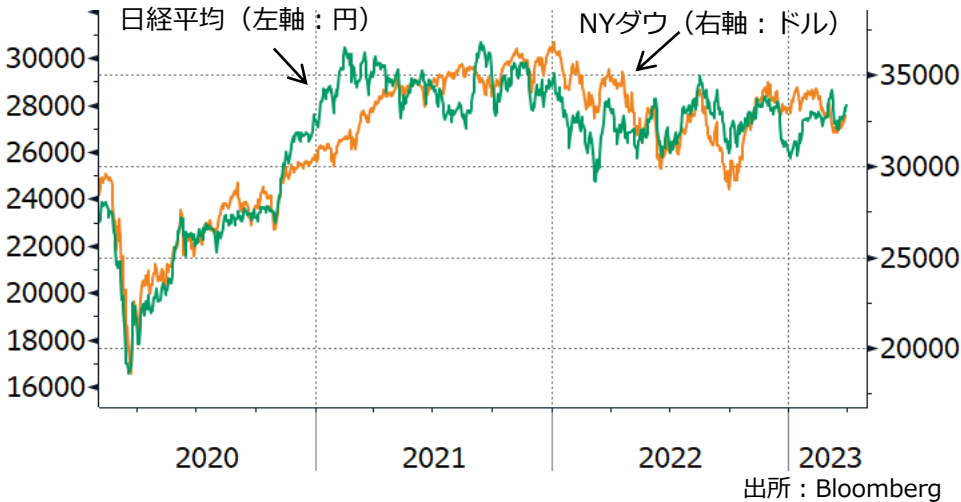


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

26,000 – 29,000円

景気先行きへの警戒で上値重いが半導体市況の回復期待等が支え

欧米の金融不安、またそれによるグローバル経済への下押し圧力が意識されリスク資産の上値は重いだらう。一方で、先行きの半導体市況の回復期待等から関連銘柄に買いが集まると日経平均の支えとなるほか、3月末を挟んで円高も一服するとみており日本株にはポジティブ要因で下値は限定的とみる。リスク要因は月末の日銀金融政策決定会合。政策修正の可能性は後退しているとするが、引締めの動きがとられた場合には株式市場の重石となる。

NYダウ



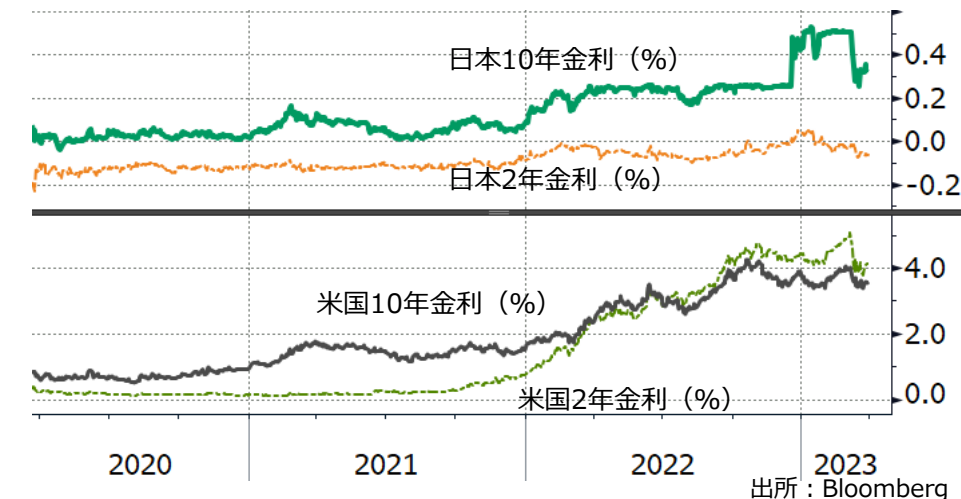
ダウは下落

31,000 – 34,000ドル

金融不安の懸念が落ち着いても景気に対する楽観論は修正されよう

米欧で金融不安が台頭するなかでもFRBの金融政策見通しが後退するとともに、米国株は底堅い動きとなっている。金融不安について過度な懸念は落ち着く可能性は高いとみるが、高インフレに対する警戒姿勢が残るなかで現在市場で見込まれている利下げ観測がやや後退すると米国株の重石となろう。また、利上げの累積的な影響と金融環境が引き締まることでの景気鈍化も意識されやすく、今月は株式市場は先行きの楽観を修正する動きが優勢とみる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は上昇

0.25 – 0.40%

日銀新体制は緩和継続路線だが米金利上昇と円安に注意

黒田総裁が退任し、植田総裁が就任する。米国発の金融不安の影響もあり、足元で国内金利も大きく低下している。イーロドカーブの歪みも縮小しており、市場機能が改善したとは言えないものの、緩和の副作用は縮小している。FRBの利上げ停止も意識されるなかで、日銀が性急に追加的な政策変更を実施する喫緊性は低下している。金融不安が一服すれば国内金利も一定の上昇圧力がかかるが、再びYCCアタックが隆盛するような環境ではないだろう。

米国債10年



金利は上昇

3.00 – 4.00%

金融不安の一服による金利上昇を見込むが、不確実性は残る

3月の米金利市場は米銀破綻問題の影響により大きく金利低下した。投資家がリスク回避姿勢を強めるなかで、安全資産である米国債の需要が高まり、債券価格を押し上げた（金利は低下）ことに加え、金融不安がFRBの利上げ姿勢を後退させるとの思惑に繋がった。3月のFOMCでは予想通りの0.25%利上げが継続されたが、利上げ到達点の織り込みは低下している。金融不安の一服により4月は金利上昇を予想するが、不確実性は高く、上昇幅は限定的となろう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年4月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		3/30		3月の相場推移		4月の予想	解説
中国	人民元/円	19.27	➡	18.85~19.81	➡	18.90~19.50	月初に米中金利差拡大や全人代での控え目な成長率目標を受け、ドル人民元は上昇したが、米金融不安を受けドル安主導で下落に転じた。外需の低迷と内需の回復による貿易収支の黒字縮小と海外旅行の活発化によるサービス収支の悪化は人民元の重しとなる。ただし米国金融不安懸念が残る中でドルの上昇余地も限定的とみており、ドル人民元相場は方向を探る時間帯が続きやすい。
	ドル/人民元	6.870	➡	6.81~6.99	➡	6.75~6.95	
タイ	バーツ/円	3.888	➡	3.79~3.95	➡	3.80~3.95	3月はドル安の進行やタイ中銀のインフレ上振れリスクへの警戒姿勢でバーツは対ドルで下落。タイインフレの鈍化が急ペースに進行していることからタイ中銀の利上げ停止期待が強いが、タイ中銀のコアCPIの上振れリスクへの警戒姿勢がバーツのポジティブ材料。観光業の回復によるサービス収支の改善も引き続き支えとなる。5月の総選挙を控える中、各政党の財政関連の公約に要注意。
	ドル/バーツ	34.24	➡	33.99~35.33	➡	33.0~35.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.881	➡	0.849~0.897	➡	0.86~0.89	貿易収支の上振れや欧米金融不安の中でのインドネシア中銀の為替介入を受け、3月のルピアは対ドルで上昇。4月のインドネシア中銀会合では政策金利の据え置きが想定されるが、ルピアの安定を重視した介入姿勢は維持され、ルピアは堅調と予想。ただし先進国を始めとする外需の鈍化が見込まれる中で貿易収支の改善が続きにくく、総じてルピアは小幅上昇にとどまるであろう。
	ドル/ルピア	15,047	➡	15,045~15,479	➡	14,950~15,150	
インド	ルピー/円	1.608	➡	1.57~1.68	➡	1.58~1.65	ドル安の中、3月のルピーは対ドルで上昇したが、上昇幅は他のアジア通貨に比べて限定的だった。4月のルピーは堅調推移を予想。軟調なインド株相場は重しとなる可能性があるが、貿易赤字の縮小はポジティブ材料。また、コアインフレへの警戒から4月のインド中銀会合で利上げが見込まれ、ルピーの支援材料となりやすい。
	ドル/ルピー	82.33	➡	81.63~82.81	➡	81.80~82.80	
韓国	100ウォン/円	10.19	➡	9.96~10.57	➡	9.90~10.40	3月のウォンは対ドルで上昇したが、欧米の景気懸念で上昇幅は限られた。4月は対ドルもみ合いを予想。韓国債のWGBI債券への組み入れ期待による資金流入期待は下支え。また、貿易赤字改善がウォン高材料となる可能性はあるが、欧米の需要鈍化や中国の半導体国産化の進展で大幅改善は望めず。一方、金融政策面では政策金利据え置きが見込まれウォン安要因となる。
	ドル/ウォン	1,302	➡	1,276~1,329	➡	1,270~1,330	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

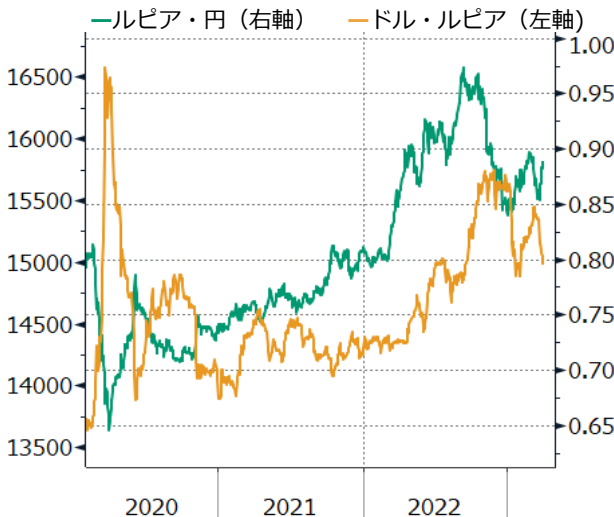
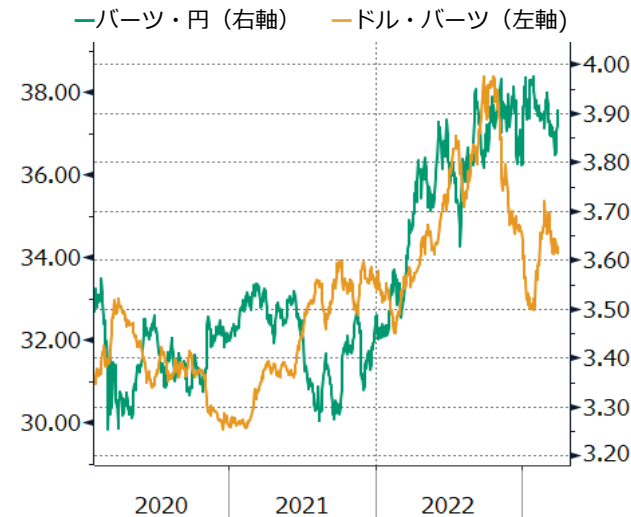
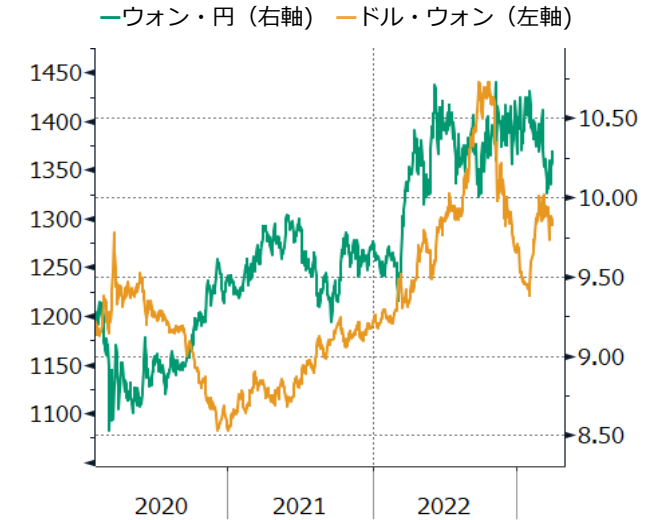
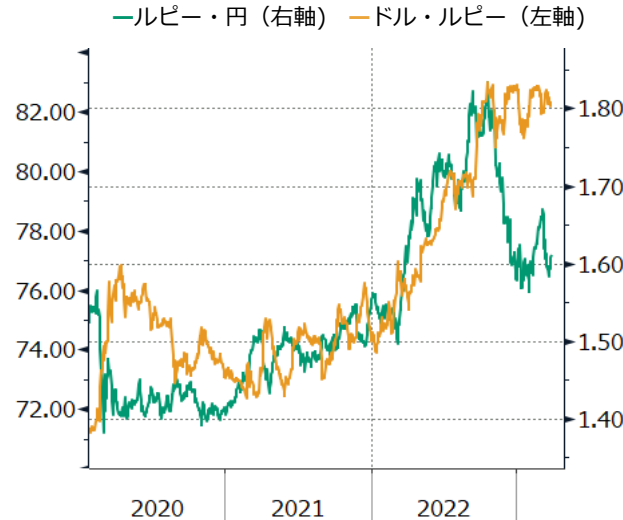
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ 年間為替見通し

		2023年			2024年	ポイント
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
ドル円	レンジ	115～140	115～140	110～135	110～135	FRBは4-6月に利上げ停止へ。その後、利下げ転換と日銀政策修正織り込みで年後半に円高基調へ。
	期末値	130	130	125	120	
ユーロドル	レンジ	0.90～1.15	0.90～1.15	0.90～1.15	0.90～1.15	足元の景況感は改善が見られるが、先行きの懸念は残る。年後半は欧米ともに利上げ停止・利下げが意識され、対USDでは揉み合いとなる。日銀政策修正期待で対JPYでは上値が抑えられる。
	期末値	1.05	1.05	1.00	1.05	
ユーロ円	レンジ	125～155	120～150	115～145	115～145	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。BOE内部でも見解の乖離見られ、経済・金融政策の不透明感から、当面上値の重い展開を見込む。
	期末値	137	137	125	126	
ポンドドル	レンジ	1.00～1.30	1.00～1.30	1.00～1.30	1.00～1.30	景気回復を見込んだ中国資産への資金流入やFRBが徐々に利上げ打ち止めに向かいドル安人民元高方向。年末に中国株高一服などから人民元高は一部巻き戻しが入る。
	期末値	1.15	1.10	1.10	1.15	
ポンド円	レンジ	130～160	125～155	120～150	125～155	中国の景気回復の恩恵を受け底堅く推移。金融不安から景気後退懸念に繋がるかがリスク要因。
	期末値	150	143	138	138	
ドル人民元	レンジ	6.50～6.95	6.40～6.70	6.50～6.80	6.40～6.70	旅行需要回復から当面底堅く推移。年後半は日銀政策修正織り込みや欧米景気悪化で対円下落を予想。
	期末値	6.60	6.50	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	16.55～21.54	17.16～21.88	16.18～20.77	16.42～21.09	
	期末値	19.70	20.00	18.94	18.46	
豪ドル円	レンジ	75～100	80～105	80～105	75～100	
	期末値	85	91	88	84	
タイバーツ円	レンジ	3.30～4.70	3.70～4.70	3.50～4.60	3.50～4.60	
	期末値	4.10	4.13	4.03	3.87	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
4/3(月)		3月ISM製造業景況指数	(中) 3月製造業PMI
4/4(火)	10年債入札	2月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会
4/5(水)		2月貿易収支 3月ADP雇用統計 3月ISM非製造業景況指数	
4/6(木)	30年債入札		
4/7(金)	2月家計調査 2月毎月勤労統計 (速報)	3月雇用統計	
4/10(月)	3月景気ウォッチャー調査		
4/11(火)	5年債入札	3年債入札	(中) 3月CPI
4/12(水)	2月機械受注 3月企業物価指数	10年債入札 3月CPI FOMC議事要旨	(中) 3月貿易統計
4/13(木)		30年債入札 3月PPI	
4/14(金)		3月小売売上高	IMF・世界銀行総会 (～16日)



	日本	米国	その他
4/17(月)		4月NY連銀製造業景況指数	
4/18(火)		3月住宅着工・許可件数	(中) 1-3月期GDP (中) 3月生産・小売・投資 (独) 4月ZEW景況指数
4/19(水)		20年債入札	
4/20(木)	20年債入札 3月貿易統計	3月中古住宅販売 4月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
4/21(金)	3月消費者物価指数		(欧) 4月PMI (速報値)
4/24(月)			(独) 4月IFO企業景況感指数
4/25(火)		2年債入札 3月新築住宅販売 4月消費者信頼感指数	
4/26(水)	2年債入札	5年債入札	
4/27(木)		1-3月期GDP (速報値) 7年債入札	
4/28(金)	3月鉱工業生産 3月住宅着工件数 3月労働力調査 植田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	3月個人所得・消費支出	
4/29(土) (昭和の日)			
4/30(日)			(中) 4月PMI

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【2/24~3/2】

◎海外投資の中国企業、7割超が「規模拡大」

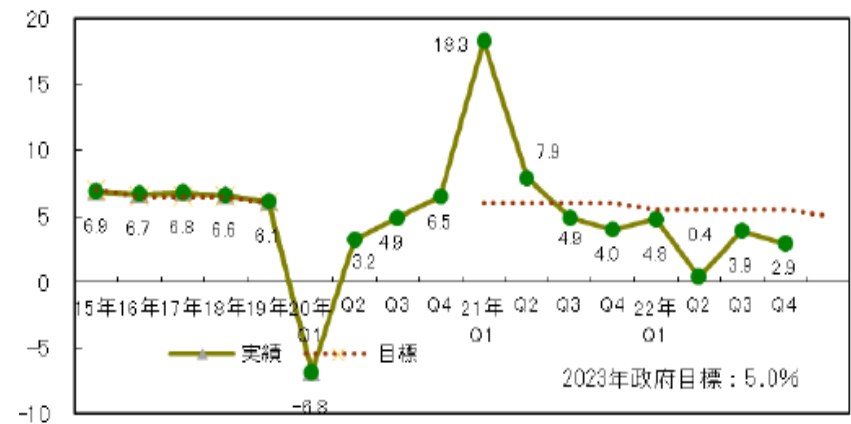
中国の経済団体である中国国際貿易促進委員会が22日発表した中国企業の海外投資に関する調査報告によると、調査対象の7割以上が海外投資の規模を維持・拡大すると答えた。8割以上は海外投資の見通しに楽観的な姿勢を示した。優先的に投資する地域を聞くと、71.8%の企業は現代版シルクロード経済圏構造「一帯一路」沿線国と回答。48.7%の企業は製造分野の投資を優先的に進めると回答し、25.2%の企業は卸売・小売り分野の投資を優先すると答えた。

【3/3~3/9】

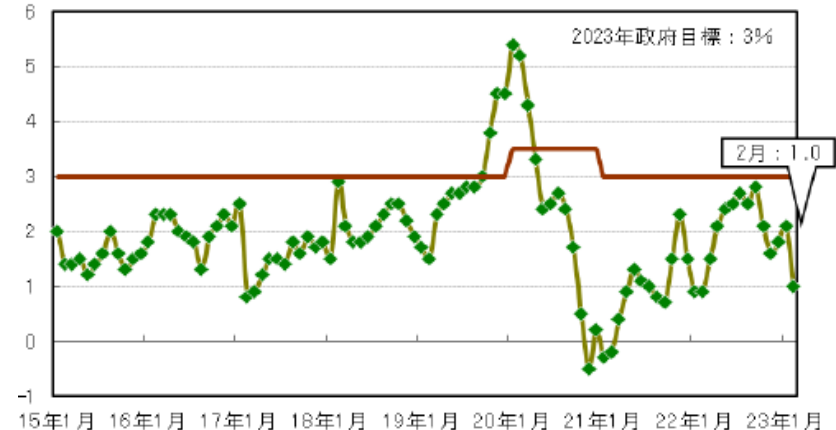
◎今年のGDP目標、5%前後

中国の李克強首相は5日、北京市で開幕した第14期全国人民代表大会（全人代、国会に相当）第一回会議で政府活動報告（施政方針演説に相当）を行い、今年の国内総生産（GDP）の実質成長率を前年比5%前後に設定した。政府が毎年目標値を設定するようになってからは最も低い目標。李氏は「安定を前提に成長を求める」との近年の政府方針に立脚し、目標を設定したと説明した。やみくもな発展を求めるのではなく、質の高い発展の推進に力を入れる考え。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/10～3/16】

◎ 2月PPIは1.4%下落、前年割れ続く

中国国家统计局は9日、2023年2月の工業品卸売物価指数（PPI）が前年同月比で1.4%下落したと発表した。5カ月連続で下がり、下落幅は前月から0.6ポイント拡大した。前年同月に石油などの卸売価格が上がっていたことを理由に挙げた。前月比のPPIは横ばい。企業の生産回復が進み、内需が改善した。国内の石油関連業界の価格が上昇したほか、金属関連業界の需要も回復した。一方気温上昇に伴い、暖房用石炭の需要が減退し、石炭採掘・選炭は2.2%下落した。

【3/17～2/23】

◎ 預金準備率を0.25%引き下げ

中国人民銀行（中央銀行）は17日、預金準備率（中央銀行が金融機関から強制的に徴収する預金の割合）を27日から0.25%引き下げると発表した。今回の引き下げで預金準備率の加重平均は7.6%となる。預金準備率の引き下げは昨年12月5日以来約4カ月ぶり。専門家は今回の措置で、5,000億元（約9兆5,700億円）程度の資金を市場に放出できるとみている。金融機関の資金力を増強し、実体経済への資金供給を拡大させる効果を持つ。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2
実質GDP成長率	%	-	-	0.4	-	-	3.9	-	-	2.9	-	-
消費者物価上昇率	%	2.1	2.1	2.5	2.7	2.5	2.8	2.1	1.6	1.8	2.1	1.0
都市部調査失業率	%	6.1	5.9	5.5	5.4	5.3	5.5	5.5	5.7	5.5	-	5.6
輸出額	10億ドル	272.3	306.4	328.1	332.3	314.9	321.5	297.9	295.0	305.6	292.3	214.0
輸入額	10億ドル	222.9	228.0	230.7	229.7	234.1	237.4	213.1	226.1	228.0	192.2	197.2
経常収支	100万ドル	-	-	166,373	-	-	310,707	-	-	417,507	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,119.7	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.44	6.71	6.70	6.73	6.80	7.02	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○春茶がほのかに香る季節に

最近、あるニュースを見ました。中国南部の海南省五指山市水満郷の茶畑は最近、茶の木が新芽を出し、青々と茂っています。

春茶摘みのベストシーズンを迎え、村の人々は今急ピッチで茶摘みをしています。このニュースを見ると、ふるさとの茶畑を思い出します。

実家の方は山があり、高い山で野生のお茶があります。毎年春になると、特に「谷雨」という節気の前は、みんなは春茶摘みで忙しいです。

「谷雨」の前のお茶の新芽が一番若くて、香りがあり、一番品質が良いです。学生時代はこの時期になるとよく母と一緒に茶摘みに行きました。

緑茶の新芽は日光を通して生き生きとした緑を見せます。この緑色を見ると、気持ちがよくてリラックスできます。

また摘んだ後のお茶は自然なさわやかな香りが出て、心に沁みます。

上海などの大都市の子供は自然と接する機会が少なく、ちょっと残念だと思いますが、やはり人間は自然の中に身を置くのが一番リラックスできますね。

そう考えると、今回の労働節の連休は子供を連れて、茶摘みに行こうかなと考えております。



○青い団子（青团）を食べる時期に

最近温かくなり、桜や杏の花も相次いで咲き、春の歩みが感じられました。

清明節がまもなく到来します。毎年この時期になると、市場で青团を売り始めます。青团は長江デルタの伝統的なお菓子です。

作り方はそんなに複雑ではなく、ヨモギの汁をもち米の粉に入れて、よく混ぜます。また一個一個小さくして、中に小豆を入れて、団子の形にして、蒸して食べます。

ヨモギは消炎や止血の作用があり、季節の変わり目であるこの時期には健康維持に一番向いています。

最近では、小豆のほかにもいろいろな具が取り入れられています。例えば、塩卵の黄身と肉の田麩または抹茶やタケノコの具もあります。

青团の皮は緑色で、春の生命力が感じられます。伝統的な食品にはやはりそれなりの意義がありますね。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年4月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行の2023年1月の経済報告によれば、国内経済が前月に続き回復しているとの見方を示した。民間消費指数は前年同月比4.1%上昇した。特にサービスの消費が同22.7%増と好調に推移した。その他、耐久消費財、非耐久消費財もそれぞれ上昇したものの、半耐久消費財は減少した。民間投資指数は同1.5%減。生産機械等資本財の輸入が持ち直したことで、前月の3.2%減から回復した。鉱工業生産指数は同4.4%減。前月の8.5%減からマイナス幅が縮小した。ハードディスク駆動装置（HDD）、プラスチックペレット、繊維・衣料等の生産は減少した一方、乗用車、化学品等の生産は増加した。外国人旅行者数は前月比2.1%減の214万4,900人とわずかに減少した。経常収支は2カ月ぶりに赤字となった。

◆タイ商務省によると、2023年1月の輸出額は前年同月比4.5%減の202億4,950万米ドルだった。前年同月比で4カ月連続のマイナス成長だったが、減少幅は前月の14.6%減から回復した。農産物・加工品の輸出は前年同月比2.7%減、主要工業製品は同5.4%減。コン

ピューター・同部品は同21.2%減、ゴム製品は同8.2%減となった。一方、自動車・同部品は前月のマイナス成長からプラスに転じた（同9.2%増）。他に、バイク・同部品（同16.4%増）、半導体関連（同72.3%増）等は好調だった。輸出先別で、主要仕向け先は同5.3%減。うち米国向けの輸出額は同4.7%減の34億400万米ドルで首位を維持した。中国向けは同11.4%減の21億8,800万米ドル、日本向けは同9.2%減の19億1,600万米ドル。南アジア（同4.3%減）、オーストラリア（同7.2%減）等も落ち込んだ。他方、ASEAN5カ国（同2.3%増）と欧州連合（同2.2%増）はそれぞれプラス成長に転じた。また、中東（同23.7%増）、アフリカ（同14.7%増）、英国（同6.1%増）も拡大した。1月の輸入額は前年同月比5.5%増の248億9,910万米ドルで、貿易収支は46億4,960万米ドルの赤字となった。1月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=33.22パーツで、前月の34.79パーツからパーツ高となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2
実質GDP成長率	%	-	-	2.5	-	-	4.6	-	-	1.4	-	-
消費者物価上昇率	%	4.7	7.1	7.7	7.6	7.9	6.4	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8
失業率	%	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
輸出額	100万ドル	23,515	25,506	26,508	23,629	23,633	24,919	21,772	22,308	21,719	20,250	-
輸入額	100万ドル	25,026	27,121	27,681	27,290	27,848	25,772	22,369	23,650	22,753	24,899	-
経常収支	100万ドル	-2,021	-2,926	-3,080	-4,045	-3,588	-56	562	-445	1,102	-2,002	-
外貨準備高	10億ドル	228.6	230.0	222.3	220.0	215.0	199.4	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50
対ドル為替レート	パーツ	33.8	34.4	35.0	36.4	35.9	37.0	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

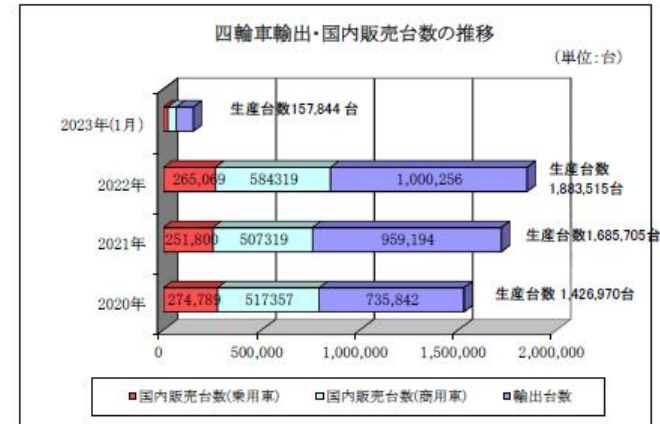
(2023年4月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

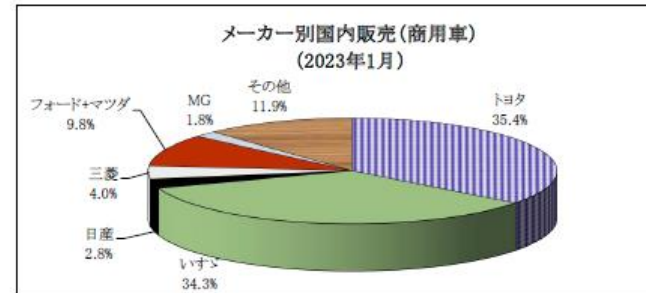
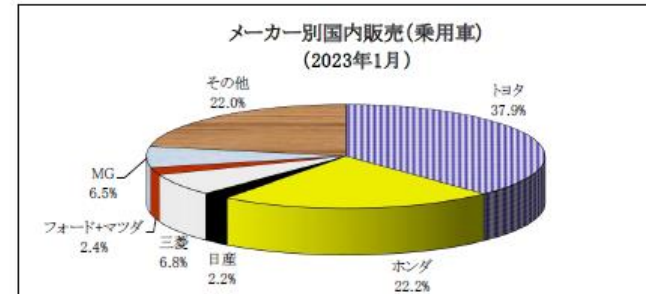
出所:タイ工業連盟(FTI)

		2020年	2021年	2022年	2023年 (1月)	前年同期比 (%)	1月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	542,437	599,844	600,839	52,141	115.3	52,141
	商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	105,703	99.2	105,703
	合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	157,844	104.0	157,844
	国内販売台数						
	乗用車	274,789	251,800	265,069	22,864	97.9	22,864
二輪	輸出台数						
	乗用車	517,357	507,319	584,319	42,715	92.7	42,715
	合計	792,146	759,119	849,388	65,579	94.4	65,579
	輸出台数	735,842	959,194	1,000,256	86,786	124.3	86,786
	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	193,910	114.6	193,910
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	159,257	109.8	159,257
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		410,912	561,147	619,348	52,672	123.1	52,672
二輪		85,802	75,985	73,729	6,335	96.5	6,335



出所:トヨタ自動車

		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	1月
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	8,664	159.0	37.9	8,664
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	15,132	90.6	35.4	15,132
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	23,796	107.4	36.3	23,796
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	14,651	95.0	34.3	14,651
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	14,651	95.0	22.3	14,651
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	5,073	82.4	22.2	5,073
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	1,998	84.2	4.7	1,998
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	7,071	82.9	10.8	7,071
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	507	34.2	2.2	507
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	1,193	115.9	2.8	1,193
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	1,700	67.6	2.6	1,700
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	1,556	78.9	6.8	1,556
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	1,728	60.4	4.0	1,728
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	3,284	67.9	5.0	3,284
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	7,064	85.1	30.9	7,064
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	8,013	104.0	18.8	8,013
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	15,077	94.2	23.0	15,077
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	22,864	97.9	100.0	22,864
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	42,715	92.7	100.0	42,715
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	65,579	94.4	100.0	65,579



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。